



## 「挨拶」と「履き物」とできて「当たり前」

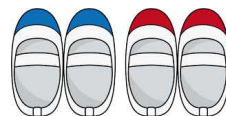
月日が過ぎるのは本当に早いものです。ついこの間新年を迎えたかと思えばもう2月です。まだまだ寒い日が続きますので、どうぞ、ご家庭や地域の皆様におかれましてもお身体ご自愛ください。

さて、昔から言われる言葉遊びに「1月は行く」「2月は逃げる」「3月は去る」というものがあります。その由来は、1月は「お正月休み」、2月は元々28日(29日)で「普通の月より短く」、3月は年度末なので「することが多い」ということだそうです。それは1月2月3月は日が早く過ぎるということの意味をしています。本当に新しい年になってからあつという間に日が過ぎた感じがしますが、過ぎた時間は戻ってきません。2月に逃げられないようにしっかり計画を立て、一日一日を大切に過ごしていきたいものです。

学校も1月10日に3学期がスタートし3週間ほどが経ちました。年が明けてからも子どもたちは寒さにも負けず毎日元気に過ごすことができています。そんな子どもたちがこのまま健康ですっと過ごしてほしいと願いながら、朝、登校のお迎えに行ったり、子どもたちの学習の様子を見ながら校舎内を歩いたりしていますと、できて「当たり前」だと思っていたことについて考えさせられることによく出合うようになりました。特に、4月の始業式に子どもたちに呼びかけた「挨拶」をすること、「履き物」を揃えることが「当たり前」にできなくなってきた子どもたちの姿や様子を度々目にするようになりました。そして、「しましよう」「しなければならない」だけでは、できて「当たり前」のことも「当たり前」にできなくなるのではと考え、今一度その意味を学校全体でしっかり問い直して取り組んでいく必要性を感じました。

「挨拶」をすることには三つの意味があると思います。一つ目は「あなたに心を開いています」という意味。二つ目は「互いに大切な関係です」という意味。三つ目は「あなたをいつも思っています」という意味です。次に「履き物」を揃えることには「心を揃える」という意味があると考えています。具体的には、「自分自身を日頃の「行動」を見つめること、振り返るということ」を意味していると考えます。自分の足元をしっかり見ながら一つ間を置いた生活を心がけると、心が落ち着いて物事をしっかり見つめることができ、冷静な判断で行動することができるようになります。このように考えるようになったのは、以前に旅行で訪れた福井県にある永平寺というお寺の廊下に掲示されていたパネルを目にしたのがきっかけでした。そのパネルには、

はきものがそろうと 心がそろう  
心がそろうと はきものもそろう  
ぬぐどきにそろえておくと はくどきに心がみだれない  
だれかがみだしておいたら だまってそろえてあげよう  
そうすれば きっと 世界中の人の心もそろうでしょう



と記されていました。それ以来、私自身、玄関やトイレ、下駄箱の「履き物」はできるだけ揃えることを心がけるようになりました。揃えているその少しの時間が自身の心を整えてくれます。

「挨拶」すること、「履き物」を揃えることはできていて「当たり前」のことではありますが、「挨拶」には相手に心を開き、感謝し、相手を思いやることや、「履き物」を揃えることには自分をしっかり見つめ、落ち着いて行動するという意味が考えられることから、この二つの「当たり前」は学校づくりや学級づくりには欠かすことのできない大切なものでもあります。

### はばたきの集い

2月28日は「はばたきの集い」です。在校生が6年生の子どもたちに感謝の気持ちを伝えまします。今年もコロナのため、保護者の方(6年生の保護者以外)には2部制での参観となりましたが、感染防止にご協力いただき子どもたちの発表の様子をご覧いただければ幸いです。

実は意味のない「当たり前」のことなどないのです。「当たり前」のことにも何らかの意味があるのです。その意味をしっかりと考えて生活することが重要ですし、私たち教職員も子どもたちも年度末を迎え、今一度本校の「当たり前」を見つめ直さなければならない時なのかも知れません。そして、「しましよう」「しなければならない」学校から、「挨拶」することや「履き物」を揃える等の真の意味を子どもたちと共に考えながら、いつも「当たり前」のことを「当たり前」にできる、そして「当たり前」を大切にできる学校に見直していきたいと思ひます。

甲南第一小学校 校長 松山 辰也